

佐

(第三種郵便物認可)

美術

野中 耕介

会場のどこを、どのよ
うに切り取ってみても、
美しい。そしていつまで
もここにいて作品を見つ
めていたい。「佐賀銀行
文化財団設立20周年記念
新人賞受賞者による作
品展」(10月、
県立美術館)は、
まさに「精華を
競う」ということばがふ
さわしい、極めて上質の
展観であった。

芸術文化の向上と豊かな地域社会づくりを目的に、毎年、顕著な活躍を果たしている若手芸術家や創作活動家らに贈られる本賞は、設立から今年で20年を迎え、現在まで48人がその栄誉に浴している。

展覧会ではその中から

県内文化

美術、文学、映像部門の受賞者が紹介されてい
たが、その顔ぶれは人間
国宝から学生までと多
士済々。皆一様に、受賞
を弾みにして作家として
の地歩を着実に固めて
いる印象で、現在、そし
て今後の佐賀―日本の芸
術文化を背負って立つ錚
々たる面々である。さら
に県内ではなかなか見る
ことができない作家(受
賞者のうち約半数が県外
在住)の作品が展示され
ていたことも貴重であっ
た。

「精華を競う」上質の展観

各作家、作品の良さを
あげれば本当にきりがな
く、(こ)で細かく取り上
げることができないが、
まず強く印象に残るの
は、会場に横溢する独特
の透明感―品格―について
もふたつある。これは

各作品が有する磨き抜か
れた技術によるところが
大きいのだが、作品をつ
ぶさに見ると、その技術
は各作家の「伝統」と「現
代」についての深い知識
と理解に裏付けられたも
のであることがはっきり
と伝わってくる。どの作
家も自身の立脚点が明快
で、手と目に「悪しき迷
い」がまったくくない。そ
る。

適当なことばではない
かもしれないが、それは
「戦略」―自ら明確に意
識する、しないを問わず
―であり、その大切さを
作家たちは無言のうち
私たちに教えてくれる。
芸術には自然に生まれる
ものと、必然により生ま
れるものがあるのではあ
る。

この佐賀でも、美術家
として成功を夢見る若者
たちは後を絶たない。本
賞はそんなかれらにとっ
て、今後もしも指標のひ
とつとしてあり続けるだ
ろう。たとえ佐賀から離
れていようと、誠実に
表現を見つめてくれるか
ら、この目の存在は、何
よりも心強いのではない
か。

(県立美術館学芸員)